

小学校外国語活動資料

茨城県教育研修センター

1 外国語活動の理念・方法・内容

- ・理念－「英語嫌いを作らない」
- ・方法－「遊び感覚を生かす」
- ・内容－「子どものニーズを生かす」

※中学校と小学校の英語のアプローチの違い

	中学校	小学校
理 念	<ul style="list-style-type: none">・ 一斉指導が中心・ 覚える（記憶に依存）・ 系統性を重視・ 音声・文字中心	<ul style="list-style-type: none">・ 遊び感覚を尊重する・ 楽しむ（忘れていい）・ 身近な生活を中心・ 音声中心
方 法	<ul style="list-style-type: none">・ 知に訴える・ 説明やドリル中心	<ul style="list-style-type: none">・ 体を使い，遊びに訴える・ 活動（ゲーム・クイズ・歌・ごっこ遊び等）中心
内 容	<ul style="list-style-type: none">・ 学習指導要領の内容・ 「させたい」ことが中心・ 覚えるための言語活動	<ul style="list-style-type: none">・ 子どものニーズを教材化・ 「したい」ことが中心・ ゲームに必要な言語材料
結 果	<ul style="list-style-type: none">・ 努力して覚える・ 努力感・ テストあり	<ul style="list-style-type: none">・ 自然に身に付く・ 楽しさ・ テストなし

2 年間活動計画の構想

○ 活動計画作成上の基本

- ・ 実践しながら作り上げていく。
子どものニーズに合わせてトピックや言語材料を配列
- ・ 内容を大きなくくりでとらえる。
「わたしの家族」－「お父さんとお母さん」「兄弟姉妹」「年齢」「誕生日」
- ・ 体系的・系統的視点を考慮に入れる。
 - ・ 内容の広がり－（低）自分の身の回り （中）友達や学校生活 （高）家庭や社会
 - ・ 系統性－（低）「体を動かす」 （中）「口を動かす」 （高）「心を動かす」
- ・ 同じ内容を方法を変えて
クリスマス－（低）サンタやトナカイ等の絵を描く （中）簡単なプレゼントの交換やツリーの作成 （高）クリスマスの意味や習慣

3 外国語活動の授業の構成

(1) 教師のプロとしての腕の見せ所

- ・ 子どもに退屈させないで同じことを繰り返させる。
- ・ 1時間に4つから5つの活動をする。

(2) 指導の構え－５つのP

- ・ **Patience** －子どもたちに十分聞かせて自然に口から英語が出てくるまで、子どもが発表に自信がもてて顔が上がるまで、待つ。
- ・ **Practice** －パターンプラクティスは場面が真の状況とは異なる。子どもが喜ぶのは、自分が活動の中心となって自分のことが言えたときである。
- ・ **Play** －遊び感覚を生かす。
- ・ **Production** －自分のこと、身の回りのことを英語で表現する。
- ・ **Praise** －ほめて意欲を伸ばす。

(3) コミュニケーションの視点の重視

- ・ 場面 (Situations)
- ・ 言葉の働き (Functions)
- ・ 表現 (Expressions)
- ・ **Communication** の視点の活動例

Hanako : Excuse me, but what food do you like?

Taro : I like spaghetti.

Hanako : Oh, spaghetti. Thank you.

Taro : You're welcome.

(4) 教室英語

- ・ 子どもの英語－決まった動作に決まった表現を使う。
- ・ 教師の英語－毎日使うことによって慣れる。

4 文字指導の考え方

- ・ 言語習得の順序を考慮する－言葉が口から溢れてくる（話す）ようになるまでたっぷり聞かせる。
- ・ 音声にたっぷり慣らしてから時期をずらして文字指導へ。
※イメージとしては、
 - 1年生～3年生 音声のみ。
 - 4年生 絵に文字を示す。（文字は視覚的に示すのみで覚えさせるのではない。）
 - 5年生 絵と文字を見て文字が何となく読める。
 - 6年生 文字だけを見て言える。

5 外国語活動の評価－「子どもの喜ぶ姿を助長する」

- ・ 基本的な構え－「できる、できない」で評価しないこと。「～しようとする」などの情意面を大切にすること。

6 改めて、外国語活動の配慮事項

- 英語はおもしろいという動機付けをする。
 - ・ 小学校段階にふさわしい体験的な学習を行う。
 - ・ コミュニケーションを図る楽しさを体験させる。
 - ・ 音声を中心とした活動を行う。

○ 中学校の英語教育の前倒しにしない。

- ・ 小学校外国語活動－音声や基本的な表現に慣れ親しませる。(学習指導要領)
- ・ 文法や単語の知識を教え込まない－忘れてしまってもかまわない。

※ 「なぜ小学校から英語なのか」－10年後，20年後に生きる子どもたちのために授けるべき資質・能力は何か，大人の判断と大人の責任で考えたい。